

## 11月：血管性認知症

血管性認知症は脳血管障害や脳循環不全が原因となった認知症です。脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の後遺症としての認知機能低下、そうした疾患がなくとも微小血管の循環不全による認知機能低下が含まれます。診断は認知機能検査と頭部 CT を組み合わせることで、核医学検査が実施できない当院でも十分可能です。臨床的にはアルツハイマー型認知症と血管性認知症が併存する場合に混合型認知症と診断します。アルツハイマー型認知症で脳血管障害を合併するものの、脳血管障害が認知機能に(ほとんど)影響を及ぼしていない場合は、アルツハイマー型認知症を主診断とします。血管性認知症では抑うつ・易刺激性・感情失禁・激昂を伴うことが稀ではなく、生活障害や介護破綻につながりやすいため、補助的な薬物療法を必要とすることも多いです。病態に合わせて気分安定薬、抗うつ薬、抗精神病薬、漢方薬などを合わせ、可能な限り本人・家族が望む生活を長く続けられるように支援します。その過程は注文仕立ての服 tailor-made になぞられます。